

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第12号

イチゴのハダニ類及びナスのすすかび病、灰色かび病の発生及び防除対策について

イチゴのハダニ類は、定植期以降気温が高く推移したため、11月5半旬の調査では平年より発生がやや多く調査ほ場の57%のほ場で発生がみられました。向こう1か月の気象予報では、気温は平年より高いと予想されていますので、今後も発生が増加すると予想されます。多発すると防除が困難になるので、早期発見に努め、初期防除を徹底しましょう。

ナスのすすかび病、灰色かび病は、11月5半旬の調査で初発を確認し、平年と比べて発生が多く、灰色かび病は調査ほ場の50%のほ場で発生が見られました。向こう1か月の気象予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されますので、今後さらに発生が増加すると予想されます。多発すると防除が困難になるので、薬剤による予防散布を徹底してください。また、通風を図るなど、発病しにくい環境づくりにも努めましょう。

1 対象作物名：イチゴ、ナス

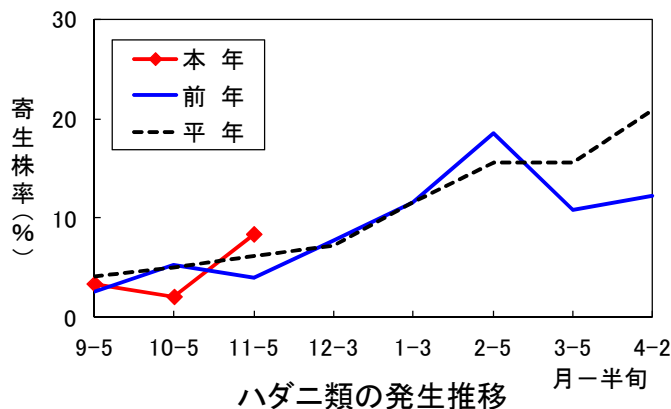
2 病虫害名：イチゴのハダニ類、ナスのすすかび病、灰色かび病

3 発生状況

(1) イチゴのハダニ類

11月5半旬調査の結果では、寄生株率は平年よりやや多く、前年より多かった。

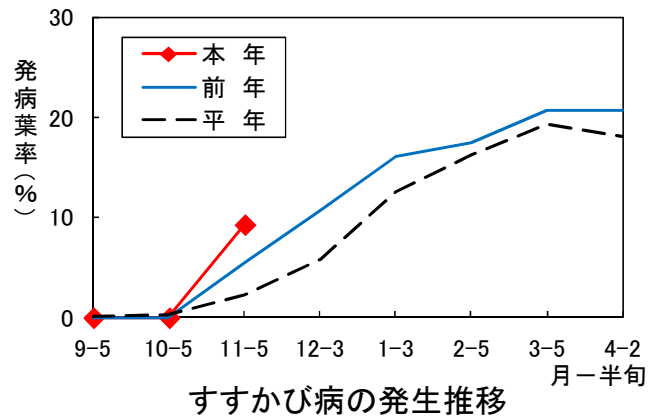
- ・寄生株率 8.4% (平年 6.2%、前年 4.0%)
- ・発生ほ場率 57.1% (平年 35.2%、前年 25.0%)



(2) ナスのすすかび病

1 1月5半旬調査の結果では、発病葉率は平年・前年よりやや多かった。

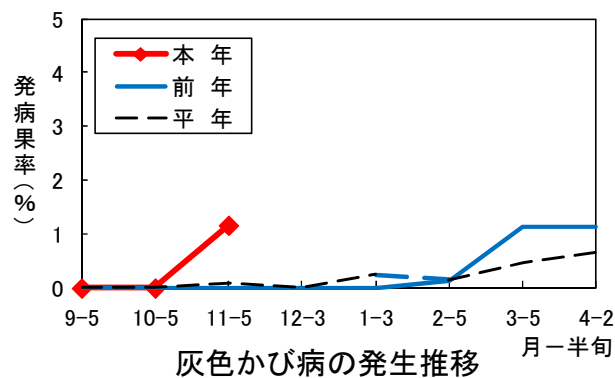
- ・発病葉率 9.3% (平年 2.2%、前年 5.4%)
- ・発病ほ場率 28.6% (平年 36.8%、前年 42.9%)



(3) ナスの灰色かび病

1 1月5半旬調査の結果では、発病果率は平年・前年よりやや多かった。

- ・発病果率 1.2% (平年 0.1%、前年 0%)
- ・発病ほ場率 50.0% (平年 2.4%、前年 0%)



4 防除上注意すべき事項

(1) イチゴのハマダニ類

ア 하우스内の除草を徹底し、本虫の増殖源を絶つ。除草した雑草や摘葉した葉はハウス内に放置せず、ビニル袋等に入れて密封し処分する。

イ 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、初期防除を徹底する。なお、防除は摘葉後に行うと効果的である。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

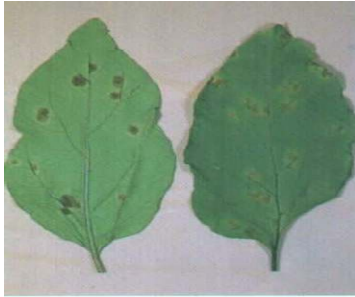
エ 天敵を利用する場合は、薬剤の選定に留意する。



ナミハマダニの雌成虫および卵

(2) ナスのすすかび病

- ア 適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。
- イ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ウ 病勢が進展すると防除が困難であるため、初期防除を徹底する。
- エ 散布ムラができないように、丁寧に薬剤を散布する。
- オ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



葉の病徴、裏（左）と表（右）



葉表の病徴



葉裏の病徴

(3) ナスの灰色かび病

- ア 適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。
- イ 発病果、発病葉はできるだけ除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ウ 病勢が進展すると防除が困難であるため、初期防除を徹底する。
- エ 散布ムラができないように、丁寧に薬剤を散布する。
- オ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



果実の病徴



葉の病徴